

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム宝寿の里		
所在地	宇都宮市宝木本町1769-1		
自己評価作成日	令和 元 年 9 月 7 日	評価結果市町村受理日	令和 元 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のもと、職員一同がご利用者様と共に生活をしており、年間行事計画など多く計画しております。ご利用者様の高齢化も進み状況に応じた行事内容を取り入れ一年を通してご利用者様には楽しんで頂いております。また、専門性の習得にも自主的に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市北西部にある当事業所は、高速道路インターチェンジや市内全域を結ぶ環状幹線道路からもほど近く、スーパーマーケットやドラッグストアなどの商業施設も数多く建ち並び、利便性に富んだ地域に位置しながら、周囲には田畑や里山が広がり、緑に囲まれた静かで自然豊かな環境にある。隣地には同法人の特別養護老人ホームがあり、ショートステイ、デイサービスなど幅広い介護サービスを展開しており、地域に根付いた施設として多方面からのサポートができるよう連携が図られている。広い法人駐車場を利用して毎年行われる盆踊りは地域の方も楽しみにしており、地域の方が出店する焼きそばや鮎焼きなどの屋台もあり、相互交流の場となっている。また、事業所で行う年末の餅つきには地域の老人会に声をかけ、送迎付きで参加してもらっており、利用者のみならず地域に住む高齢者の楽しみの一つにもなっている。明るく朗らかな管理者を中心に、職員も皆笑顔で日々の支援にあたっており、利用者も表情豊かに穏やかな様子で暮らしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 元年 9 月 30 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ホーム理念は、朝礼の申し送りの際唱和しており、共通認識にて一日のケアが始まります。	地域の中で一人ひとりがその人らしい暮らしができるよう、利用者に寄り添った理念を掲げている。支援に迷いが出たときや忙中、おろそかなケアになりがちな時には職員各々が自分の中で理念を唱和し直し、理念に立ち返りながら日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会(仁宝会)に1/2か月参加し、地域のボランティアの方に来所して頂いております。また、恒例行事である8月の地域交流盆踊りへ参加し交流を深めております。	自治会に加入し、地域清掃への参加や利用者と一緒に回覧板を届けるなどしている。中庭のシンボルツリーである桜が満開になる季節には、近所の方も交えてお花見やお茶飲みをしている。様々な行事を通して地域交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会に参加することにより、地域の方へ認知症の方の理解と協力を伝えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しており、事業所の行事に合わせてご家族様へ参加の働きかけを行っております。行事報告や今後の取り組みの内容を提案し話し合いをしております。	行事や日中の活動の様子を中心に報告を行っている。民生委員や自治会長からは地域の声を聞く機会にもなっている。利用者や地域包括支援センター職員からの意見も挙がり、運営に取り入れるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度や運営等に対しての相談はさせて頂いております。事故発生時は宇都宮市役所担当課に報告し、助言、指導等頂いております。	市関係各課の担当者とは相談しやすい関係が築けている。また、地域包括支援センター職員とは運営推進会議や様々な機会を通して情報を共有し、協力・連携関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員一同周知徹底し、その都度話し合い確認をしている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化のための指針を作り、それを基にマニュアルを整えている。毎月の会議での振り返りと2ヶ月に一度の研修にて、職員の周知徹底に努めている。常に目配り気配りし、職員同士声をかけ合い、転倒の危険がある利用者には付き添い見守るよう努めるなど、安全に配慮しながら拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活においてご利用者様への言葉遣い等に注意を払い、虐待がないように会議等で周知し防止に努めております。また、研修会への参加を進めております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は理解しております。内外学習にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、内容についてはご理解頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会・面会等で意見や要望の話す機会を設け、対応している。また、アンケートを実施し、運営に反映するよう取り組んでおります。	日頃から会話と傾聴を大切にしている。年1回の家族交流会や事業所のケアや取り組みについてのアンケートを実施し、家族の意見や希望を把握する工夫をしている。挙げた意見は運営に反映できるよう取り組んでおり、困難な場合も話し合いをもつなどしながら真摯に向き合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者との年数回の話し合いの中で、ホームでの実践する内容や目標の意見交換の場を設け、より良い環境づくりに取り組んでおります。	事業所の取り組みに関する年間目標や短期目標について法人代表者と管理者とで年3回話し合っている。現目標の振り返りや新たな目標の提案など職員からは忌憚なく意見が挙がり、全職員で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や職員のやりがいが持てるような規定で取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での全体会議の研修やチューター研修等(各ユニット1名のチューターを配置)に取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協会に入会し情報の共有や研修等に参加している。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の表情や行動を見極め、会話や外出の機会を増やし不安状況を出来るだけ抱えない環境づくりに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、電話や面会時に要望・意見交換等しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状態に合わせたサービスの支援を視野に入れ、ケアマネジャーや施設職員に相談や連携が図れるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の態度や行動を理解し、その方に合ったケアをし、同じ目線での対応をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご利用者様の状況を文章で報告しております。また、普段の生活状況を見て頂いたり、面会には、日々の生活状況をお伝えし、共有して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来苑された時には、ご自分のお部屋で過ごして頂いております。馴染みの場所は、本人やご家族様の協力を得て実施出来るよう努めております。	昔なじみの知人が訪ねてくる利用者や電話で話す友人がいる利用者など、これまでの関係が途切れず継続できるよう支援している。また、信仰している宗教や、馴染みの寺への参拝など、家族や関係者と協力しながら、本人が大切にしてきた習慣を入居後も継続していけるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合うご利用者様を同じテーブルにしたリ、レクリエーションを一緒に行ったり、関りが持てるよう支援しています。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設関係者の方に生活状況を説明し、時には施設に伺っております。ご家族様からの相談もお聞きし対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活状況にあったケアが出来るよう、職員間での情報収集やカンファレンスで共有しプランに反映しています。	リハビリがしたい、蜜柑ゼリーを作りたいなど、各々の希望を取り入れた暮らしができるよう取り組んでいる。入浴中など1対1の支援中に本音が出る事が多く、傾聴に努め、思いを引き出し把握している。会話が困難な場合も、活動時の様子やふとした表情の変化などから思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族様、ケアマネージャーからの情報収集をしております。入居後もご家族様と情報を共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様個々の一日の状況を記録に残しております。また、毎日バイタル測定体調管理に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様からの要望や希望を伺い、ケアマネージャーと職員全員で課題等を話し合い、ご利用者様一人ひとりに合ったケアプランを作成しております。	利用者の状況を毎月家族に報告し、日頃から情報共有している。医師や看護師、家族等関係者の意見を取り入れながら、会議において職員で話し合い、ケアプランに反映している。3ヶ月毎の見直しを基本に、変化があればその都度必要に応じて変更し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の個々の日々の記録等から、職員間での話し合いをし、ケアに活かし介護計画の見直し実践をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望があれば、出来るだけ沿える様配慮させて頂いております。また、ご家族様からの相談、通院支援、訪問歯科、介護保険の更新の手続き等を行っております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地域消防の方の協力を頂き、避難訓練を実施しており、一人外出をされる方のご家族様より了承を得て、駐在所への情報提供を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様一人一人かかりつけ医を決めております。また、ご家族様の希望、確認により往診、訪問看護、事業所との関係を築いております。	これまでのかかりつけ医の継続や協力医への変更など、入所時に希望を確認している。個々の医療・通院等の記録をまとめたファイルを作成し、事業所・医療機関・家族で情報共有している。通院は家族対応だが、ファイルを持参することで、記憶違いや情報の漏れがなく共有でき、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様のケアの中での気づき等を早期発見に努め、変化があった場合は、主治医、訪問看護に情報を伝え、連携しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関において病院関係者と話し合いの中で、早期退院出来るよう情報交換を行っております。入退院時にご家族様への不安がない様配慮し、医療関係者と連携に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族様に医療方針を説明し、ご家族様から希望を伺っております。また、重度化や終末期の場合は、ご本人、ご家族様の意向を確認しながら、主治医、訪問看護と連携し施設で出来ることを行っております。	入居時に事業所の方針を説明している。医療行為がなければ看取りまで対応している。終末期では家族の宿泊も受け入れており、最期の時間を一緒に過ごし、家族も共に看取った利用者もいる。看取りケアについての勉強会を行うなど、職員教育にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に一度救急救命講習を参加する事にしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を行っており、自治会に参加する事により地域の皆様にご理解頂いて協力体制を確保しております。	消防立ち合いの訓練の他、火災・地震・昼夜など様々な状況を想定した自主訓練を行っている。避難経路も7カ所あり、より安全な経路で移動できるよう取り組んでいる。自治会長・民生委員も都合がつく時には訓練に参加してもらい、普段から連絡すればすぐに駆けつけてもらえるなど協力を得ている。地域の消防団との連携も取れている。消火器の取り扱いや場所の確認を日頃から行い職員はよく把握している。	あらゆる状況を想定し現実に即した訓練に取り組んでいるので、訓練から見えてきた課題点(特に夜間の対応など)を具体的にまとめ、より実情にあった対策の検討に期待したい。

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの尊厳やプライバシーの確保を十分理解し、全職員対応しております。	年3回以上の接遇研修を行い、職員はその重要性を良く認識している。親しみを持ちつつも馴れ合いにならないよう言葉遣いは敬語で対応している。利用者の希望に合わせ、入浴や排泄時の同性介助にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を決められる様に支援しております。また、訴えの困難なご利用者様の表情、言動を察知し、対応出来るよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりのリズムやペースを第一に考えて支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に添い、今まで使用されていた愛着の物を使用出来るようにしております。また、馴染みの理容室や、訪問カットの方に来て頂き、ご本人の希望を出来るだけ取り入れ支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との会話の中で、食べたい物を言って頂き提供出来るよう支援しております。また、準備や片付けが出来るご利用者様には、お手伝いをして頂いております。	週に1～2回、職員と利用者と一緒に買い出しに出かけている。旬の食材を見て考えて選ぶことも楽しみの一つとなっている。毎日の食事は、利用者の希望や季節感を取り入れながら、その日にある食材から考え作っている。配膳下膳を共にし、残存機能を活かしていただける方には調理にも参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食のバランスを考え、主治医との連携を図り、ご利用者様一人ひとりの状態を把握し、水分量の確認をし対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状況に応じ、毎食後の口腔ケアを実施し、週に2回は訪問歯科にて一人ひとりの口腔ケアを行っております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になったご利用者様には、トイレの声掛けをしている。排泄介助の必要ご利用者様には、その方に合わせた排泄でなるべくトイレで排泄ができるよう職員は努力しております。	誘導の際は耳元で話しかけ、本人が馴染みのある表現やプライドに配慮した声かけを行っている。夜間も、本人からの呼びかけのほか、巡回時には安眠妨害にならない程度に声かけし、おむつを使用せずトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝一の水分補給、ラジオ体操等を行い予防に努めております。また、主治医、訪問看護と相談し、自然排便が出来るよう取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調管理した上で、出来るだけ気分や希望に応じて入浴剤を使用し、入浴を楽しんで頂いております。	一日おきの入浴を1対1で支援している。14時～20時の間で、なるべく希望の時間に入れるよう努めている。入浴方法や手順などもこれまでの個々の習慣に倣い希望に添うようにしている。拒否のある方も声かけの工夫などにより、本人の思いに寄り添いつつ気持ちよく入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて休養が取れるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと服薬管理を行っており、服薬台帳には薬の効能等を記入し職員が理解しやすいようにしています。服用後、変化がないか観察し異常時は主治医、訪問看護に報告し対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴を参考に、楽しみや役割を持ち季節感のある行事を立て外出しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出られるよう散歩、近場のドライブ、買い物等行っております。また、一泊旅行などご家族様にも参加して頂けるよう支援しております。	近隣の農道を体力や体調に合わせたコースで毎日散歩している。栗拾いなど季節毎の楽しみもある。気候の良い日は希望の場所へドライブに出かけたり、ドラッグストアなどへ個別の買い物にも出かけている。毎年、家族の協力により鬼怒川や日光、那須などへの温泉旅行を実施している。	

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご家族様と相談した上で自分で管理出来る範囲で行って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より希望があった時に、施設の電話を使用しご本人の出来る範囲で行っております。他は職員が支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にソファーを用意したり、季節感は職員の工夫で飾り物を行ったりしております。	リビングには利用者の作品やソファ、カラオケを配し、中庭では花見や紅葉を楽しんだり外気浴をしたり草取りをしたりと、各々の楽しみや四季を感じながら過ごせる環境作りをしている。廊下には天窓があり穏やかな自然光が差し込み明るい。感染予防も兼ねた次亜塩素酸による加湿を行うなど空調管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様によって好きな場所で新聞を読んだり、気の合ったご利用者様同士で談話したり、時には配置を変えたりし支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分に合った使い慣れた馴染みの物をご家族様に伺い、好みの物を活かした生活空間を提供しております。	洋室と和室があり、各部屋には洗面台、カーテン、エアコン、箆笥が備え付けられ、洋室には机と椅子、ベッド、クローゼット、和室には押し入れがある。その他に各々馴染みのものや使い慣れた家具等を持ち込み、その人らしい部屋作りをしている。毎日の掃除や衣類整理などを職員と共に行い、好みを活かしつつ清潔で整理整頓された空間になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に、ご利用者様に合わせ表札を付けたり、安全な環境で生活の支援が出来るよう工夫しております。		